



能楽師(大鼓方葛野流)。松山城下(現、松山市)出身。本名は利吉。幼時から喜多流謡曲と葛野流大鼓を学び、東雲神社の神能において神童との評判をとる。その後、高浜虚子の兄である池内信嘉の勧めで上京し、葛野流大鼓家元預かり・津村又喜に入門したが1年後に死別。しかし、九淵は必死の努力を積み、葛野流の家元代理や家元預かりの重責を担いながら多くの門弟を養成するとともに、芸術院会員に任ぜられ日本能楽界に最高の地位を築いた。

その芸は重厚峻厳、秋霜烈日などと評され、能楽界で初めての重要無形文化財保持者(人間国宝)の認定を受けた。また、社団法人能楽協会の相談役や能楽三役養成会主席講師などを務めた。虚子と同年で小学校をともに通った。

略歴

- | | |
|------------------|---|
| 明治7(1874)年3月10日 | 松山城下の魚町に生まれる。
少年時代松山で葛野流大鼓を学び、東雲神社の神能で天稟の才を囀られる。 |
| 明治32(1899)年 | 上京し、葛野流大鼓家元預かり・津村又喜に入門 |
| 明治33(1900)年 | 師である津村又喜に死別 |
| 明治37(1904)年 | 日露戦争献金能で宝生流の石橋連獅子を勤める。 |
| 明治39(1906)年 | 宝生九郎引退能で安宅延年舞を勤める。 |
| 明治43(1910)年 | 明治天皇の御前で舞台を勤める。 |
| 大正4(1915)年 | 大正天皇即位式で舞台を勤める。 |
| 昭和25(1950)年 | 葛野流宗家預かりとなる。 |
| 昭和28(1953)年 | 芸術院会員に任ぜられる。 |
| 昭和30(1955)年1月 | 重要無形文化財保持者(人間国宝)の認定を受ける。 |
| 昭和31(1956)年 | 川崎九淵引退披露能を演じ引退 |
| 昭和36(1961)年1月24日 | 86歳で永眠 |

(写真提供：川崎勝子氏)

〈関連図書〉

- ・愛媛県百科大事典編集委員室『愛媛県百科大事典』 愛媛新聞社 1985年
- ・西野春雄・羽田昶『能・狂言事典』 平凡社 1987年